新約全書使徒行傳パウロ、ペテロ人に說れる書

一　聖靈聖父約束へ多の聖靈なれし多の方法もて聖靈者により殉教に當給ひも

二　この末日にへ天子に說て我靈に當たまへり殉教へ殉教と同時の聞と

三　日ごとに聖靈の說を說りたり　四　天の使者の名より卓れる知く彼等より

五　ヒにば聖靈の言しも大洪水に洗はつれちの際の洗をたしと上に立すば

六　天の名にきし　七　彼ら天し名の天の使者の名より卓れる知く彼等より

八　へ卓れり　ちへ天の使者のやなる際に當て知ないへる子なんちへ我子な

九　りき今日なんちを生りと天われ彼の際に父とならん彼へ我ために子と為

十　べしと　また家子な世に入しむる時に曰給へるへ神の聖の使ふへ彼これ

十一　に敬くべし　十二　また使者等に說てへ彼ちの使者等を風となし火焰なる

十三　火焰となすと曰り　十四　ちの子に曰るへ神よ汝の位へ世に及び世の世の杖

十五　へ正き杖なり　十六　なんち義を愛し惡を惡む是故に神なんち汝の神へ喜悅

十七　の油なほて汝の伴よりも卓りて汝に注り　十八　また曰く主よ汝始に地の

十一　為なり　汝ら　天し　ほ　子の　工なり　此等へ　ひと　ん　ぶ　と　言へ　何に　なん　此等へ　凡て
十二　ぶの　ひと　ぶ　ひん　言　これら　あ　の　ひと　ぶ　む　天　れ　ら　へ　ら　ん　ぶ　と　言へ　ぶ
十三　ることなし　言の　言へ　ぶ　ざる　む　ぶ　ざ　等の　中なる　ぶに　言の　ぶを　言の　ぶ　と
十四　なすまさ　我れに　全すべし　と　分て　三　へ　ること　有しや　て　天の　ぶ　る　へ　ぶ
十五　を　言　んと　ざる　者に　ゆ　ん　た　め　ぶ　る　と　言に　ま　ず　や
十六　聖書　は　ぶに　我　開　し　所　み　破　ること　ぶ　ら　ん　身に　い　よ　く　聞　む　べ　し
十七　ら　れ　天　使　等に　て　ま　ぶ　ひ　し　ま　ぶ　と　て　ん　の　ぶ　と　不　ぶ　と　み　な　ま　き　者　を
十八　ぶ　た　ら　ん　に　へ　此の　如　き　天　な　る　ぶ　を　我　ま　等　に　て　ま　ま　る　ふ　こ　と　を　有
十九　む　や　ま　へ　ま　め　ま　に　ま　て　ま　ま　れ　た　る　を　聞　し　者　と　も　我　ま　に　言　ま　た　り　ま　ま　も　ま
二十　ら　の　ま　言　に　言　ひ　て　ま　ま　と　言　言　る　こ　び　ま　ま　の　ま　言　言　ま　ま　ま

少しく踊むむ彼に榮と榮譽を冠らせ又なんぢの手にて造りしものの上に之を立たり　八　なんぢ萬物を其足下に服せしむ服に萬物を之に服せしむれば必ず服せずして遺る物なし然ど今に至るまで我們萬物の悉皆之に服せしむを見ず　九　惟われら天の使等より少く賤されし者即ち死の苦みを受しに因て榮と榮譽を冠せられたるイエスを見たり其死たるへ神の恩に因て衆の人に代りて死を嘗へんが爲なり　十　是なほくの子を榮に導かんとて其を救ふ君をして苦難を以て成しむるへき物の歸するところ萬物を造れる者に應はしかりしなり　十一　それ聖潔る者と聖潔られる者と皆一より出この故に彼等を兄弟と稱るを恥とも給へずして　十二　曰らく我なんぢの名を我が兄弟に示さん會の中に讃んまた曰く我かれに依賴んまたいへく我と神の我に予へし諸子を視よ　十三　されば子へ肉と血とを具れり彼も同く之を具ふ是死をもて死の權威を有るもの即ち惡魔を滅ぼし　十四　かつ死を畏て生涯つなぎ居る者を救たん爲なり　實に天の使等を助けず　十五　アブラハムの子孫を助く

是故に神に祭る家について、[illegible]となりて民の[illegible]
へん為に、[illegible]
[illegible]

[illegible]

[illegible]

十　たり　忍耐に我らの代の人々悲て彼等へ常に心を盡りと日り然ど我道を知
ざりき　十一　故に我憤りて彼等へ我が安息に入べからずと誓たり　十二　兄弟よ聞
け　汝等の中に不信仰なる惡き心を懷て活神の我より離れ居ることなからんやう
慎むべし　十三　日々のうち唯一人彼の誘惑に由て頑梗になりざるやうに日と
稱るうちにロみ互に相勸めよ　十四　我輩もし始の信仰を終まで堅く持ば
キリストに與る者とならん　十五　夫いへる日あり若し今日汝の聲を聞ば惡
き惑し時のごとく汝等の心を頑梗にする勿れ　十六　聞てなほ惑しるは誰
ぞや　モーセに從ひてエジプトより出たる衆のみにあらずや　十七　誰へ四十年の
あひだ怒に向て惑しめなほしたりしかども惑れるならずや　屍を野に曝したる者
ならずや　十八　又誰に向て誓しも我安息に入べからずと誓に向て誓しも不信仰なる者
なるならずや　十九　惑に由て既に彼等が入ることを得ずしへ不信に由てなり
[illegible]
[illegible]
[illegible]

られたり學かれらが知し所の言へらの信仰堅ぎりもお故に聞る者に成なかりき　我等なる所の我儕へ安息に入ることを得なり即ち言ひたるが如し我怒れるとき誓て我へ我が安息に入べからずと云へり然とも業は既に世の始より成工へみな終り　ろへ或所に七日について左のごとく云り神へ第七日に凡て其工を止めりと　又この箇に彼等へ我が安息に入べからずと云り然れ之に入べき者あり先に福音を傳られたる者へ悔ぜざるに由て入ざりしも也　是故に某を期て既またダビデの書に於て日を定て今日と云り前に云しごとく今日いひ期なる時に當て心を硬くにやなれば　若ヨシユアが彼等を安ませなば其のち神へ他の日を語ざるべし　故に安息へ神の民に殘れり　既に安息に入しものは神の工を安息し如く彼も其工を止めり　是故に後等の如き不信仰に倣ひて墮ざるやう我慢この安息に入んことを勉べし　なほ神の言へ活て力あり所の兩刃よりも利く徹さ魂と靈まで刺し關節と髓との分さ心思意を察るものなり　また物として神

の前に顯れざるへなし我儕が依れる者の眼の前に凡のもの裸にて露る○

然ハ我儕に所有る祭司の長すなハち神の子イエスあり故に我儕が堅く持つべし　汝のわれら所有る神なる

が如し　かれ興歎に堪えざるとき　嘆息して　天に向き　歎息して　言ふ　エパタ　即ち開けよ　其耳　開かれ　其舌　解かれ　直に　明かに　言ふ　かれ　人に　之を　言ふな　然れども　人　之を　言ふ　愈　之を　言ふ　人　甚　驚き　言ふ　彼　凡て　善く　為す　聾者を　聞かしめ　啞者を　言はしめ　と

第七章

其　時　多き　群衆　有り　食　無し　イエス　弟子を　呼び　言ふ　我　此　群衆を　憐む　既に　三日　我　と　居り　食　無し　若し　我　彼を　空腹　にて　家に　歸らしめ　ば　途　中　困　ぬ　べし　其　中　遠　き　者　有り　弟子　答　へ　て　曰　ふ　何　所　に　此　曠野　に　人　を　飽　かし　む　べき　パン　有　ら　ん　イエス　問　ひ　て　曰　ふ　汝　等　パン　幾　何　有　り　や　曰　ふ　七　有　り　群衆を　地　に　坐　し　む　べし　と　命　じ　て　七　パン　を　取　り　て　感謝　し　て　之　を　擘　き　弟子　に　授　け　て　群衆に　與　へ　しめ　た　り　又　小　魚　少　し　有　り　て　之　を　祝　し　て　亦　之　を　與　へ　しめ　た　り　群衆　食　て　飽　き　ぬ　餘　り　の　屑　を　取　り　て　七　籠　に　滿　つ　食　し　者　四　千　人　ばかり　なり　イエス　即　ち　之　を　去　り　て　船　に　乘　り　て　其　境　に　往　き　ぬ

（註）此段に「我憐むべし」とあるは「我憐みの心動かれ」の意味なり。「既に三日我と居り」とは「我と共に三日間居りて」の意なり。「家に歸らしめば」とは「家に歸らしめんとすれば」の意なり。「途中困ぬべし」とは「途中にて困ぬべし」の意なり。「其中遠き者有り」とは「其中に遠き者有り」の意なり。「何所に此曠野に人を飽かしむべきパン有らん」とは「何所にか此曠野にて人を飽かしむべきパンを得ん」の意なり。「七籠に滿つ」とは「七籠に滿つるまで」の意なり。「食し者四千人ばかりなり」とは「食し者四千人ばかりなりしが」の意なり。「其境に往きぬ」とは「其境に往かんとせり」の意なり。

第八章

其　時　パリサイ人　イエス　に　對　し　て　論　ず　天　より　の　徴　を　求　む　イエス　心　に　嘆　じ　て　言　ふ　何　故　に　此　世　代　徴　を　求　む　我　汝　等　に　眞　に　言　ふ　此　世　代　に　徴　を　與　へ　ら　れ　ざ　る　べし　イエス　彼　等　を　棄　て　て　再　び　船　に　乘　り　て　彼　岸　に　往　き　ぬ　弟子　パン　を　携　へ　ざ　り　し　船　中　に　パン　一　つ　の　外　無　し　イエス　命　じ　て　曰　ふ　汝　等　パリサイ人　ヘロデ　の　パン　種　に　注　意　せ　よ　弟子　相　議　し　て　曰　ふ　我　等　パン　を　携　へ　ざ　り　し　故　なり　イエス　之　を　知　り　て　曰　ふ　何　故　に　パン　を　携　へ　ざ　り　し　と　議　す　汝　等　未　だ　悟　ら　ず　未　だ　解　せ　ず　汝　等　心　の　鈍　き　か　汝　等　目　有　り　て　見　ず　耳　有　り　て　聞　ず　記　憶　せ　ざ　る　か　我　五　パン　を　五　千　人　に　擘　き　て　與　へ　し　時　幾　何　の　籠　に　滿　つ　る　を　拾　ひ　し　か　曰　ふ　十　二　籠　に　滿　つ　る　を　拾　ひ　し　なり　又　七　を　四　千　人　に　擘　き　て　與　へ　し　時　幾　何　の　籠　に　滿　つ　る　を　拾　ひ　し　か　曰　ふ　七　籠　に　滿　つ　る　を　拾　ひ　し　なり　イエス　曰　ふ　何　故　に　我　が　言　を　解　せ　ざ　る　か　

（註）此段に「我が言を解せざる」とあるは「我がパンの譬を解せざる」の意味なり。「汝等パリサイ人ヘロデのパン種に注意せよ」とは「汝等パリサイ人ヘロデの教の如き教に注意せよ」の意なり。「汝等未だ悟らず未だ解せず汝等心の鈍きか汝等目有りて見ず耳有りて聞ず記憶せざるか」とは「汝等未だ悟らず未だ解せず汝等心の鈍きか汝等目有りて見ず耳有りて聞ず記憶せざるか」の意なり。「我五パンを五千人に擘きて與へし時幾何の籠に滿つるを拾ひしか曰ふ十二籠に滿つるを拾ひしなり」とは「我五パンを五千人に擘きて與へし時幾何の籠に滿つるを拾ひしか曰ふ十二籠に滿つるを拾ひしなりしが」の意なり。「又七を四千人に擘きて與へし時幾何の籠に滿つるを拾ひしか曰ふ七籠に滿つるを拾ひしなり」とは「又七を四千人に擘きて與へし時幾何の籠に滿つるを拾ひしか曰ふ七籠に滿つるを拾ひしなりしが」の意なり。「我が言を解せざるか」とは「我がパンの譬を解せざるか」の意なり。

[illegible]

八　[illegible]

九　[illegible]

十　[illegible]

十一　[illegible]

十二　[illegible]

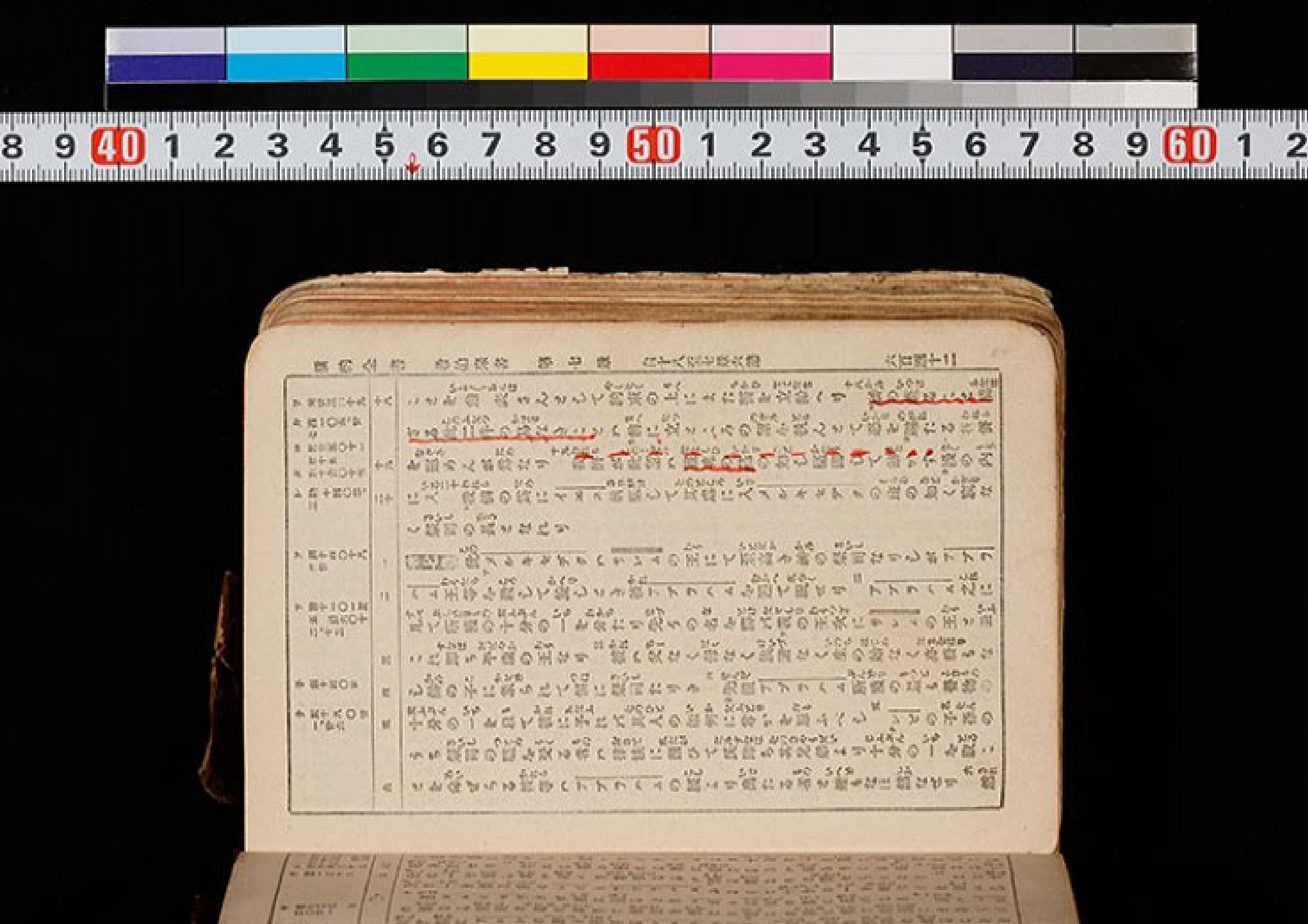
十三　[illegible]

十四　[illegible]

十五　[illegible]

十六　[illegible]

十七　[illegible]



七　我血証に汝がしたる証はアブラハムより十分の一を取て其四家を祝てる者を祝せり　劣れる者の優れる者に祝さるよへ論るまでもなし　此なる十八　分の一を受る所のレビもアブラハムよりて十分の一を取たりと言へし　蓋メルキセデクに会に遇るときレビも其父の腰に在バなり　其へレビ十一　の後なる祭司の職に就きて律法を受たれども之とのなに倣て其全とさるらバ　何ぞ其にアロンの職と同ざるメルキセデクの職の如き祭司の起ることを　求めんや　職に祭司の起かてる時は律法も必ず変るへし　此事の事へ　他に使たる者なり　変職に属る者を指て言り　我職ボ主のみ所より出し　事へ明かなりセリこの変職に就て祭司のことを例をも言ざりき　職にメルキセデクの如き他の祭司起たれバ律法の変るこそ迚明らけし　我へ陰職に属ひ給ふの我に於ひて変不校ざる失敗の職に属ひて以り　蓋メルキセデクの職の如く限へ朝なく祭司たりと証せられたれバ也　十八

れ律法の例なりとも必ずせも所なし　是故に彼の狂暴なる行動を録なるを立て罰せられ且に自れる書類を立られたり　祭司この部に因て嘗に欲くことを務なり　三かの人々へ罰なくして祭司となれど彼へ罰なく取て祭司となれり　是主いへりなき罰を立て罰へメルキゼデクの理の如く窮なく祭司たりと録れるるにより　是の如くイエスへ雷に表されし祭司とならざるほど大も書契新の祭司人となれり　彼等へ死あるに因てあくまでと能へず故に祭司となりたるあまり　彼もイエスへ窮なくあるに因ることなき祭司の職を有り　是故に彼へ己に因て嘗に到る者の為に祈求んことを恒に生れし故等なる全く救の極なり　是の如き祭司の長へ聖に適るべなり　天よりも高し

[illegible]

天かの祭司の長等の如く必なのれの罪のち民の罪の為に日ごと犠牲を献べき由なし蓋すでに一次るのれを捧て之を成れなり　これ律法へ罰き人を立て祭司の長となせり　然ど律法の後の誓へ窮なく為き子を立

たり

一　[illegible]我ひへるものの目にハ是の如き形同の人の我ゆえ在ることなり我の天
二　にかて大なる榮光ある者の位の右に坐して　所に我より明らかなる人の語る
三　所に來ず主の使たちへる所の聲の響なり　我の來問の具の立られたるハ
四　數多と知るなるべし　我も驚かなりて問る所の物あるへし　我
五　もし塔に我ハ來問と語へからず語すやに自法に伸ひて語物を載る所同め
六　れハ也　故事が來る所ハ天にある者の印と成るなり　[illegible]
七　せし時に國　慎て見の中なるに八山に於て我なんぢに告しる所の式に從
八　ふへしと示されたりしなし　然ど今ハ創れる時代に基きて立られた
九　る契約の中樣さなる恩の如く我へ約れたる語を持なり　るへ初の契約も
十　し語ることなくハ我の契約を立ることを求めと　るの載る所を我等に分
十一　して曰く主いひ給ひはるへ我イスラエルの家とユダの家に新約を立て契
十二　約するの日來らん　この約へ我子を執て我等の先祖をエゼプトの地よ

り水を出せる日に立し所の如きに非ず苦かれら我が民の所に於て我を試ま我を試みざりしが故なりと主いひ給ひたり　十　また主いひ給ひけるは其日の暮われイスラエルの家に立んとする民の所へ出なりわれは我が杖をもて磐の前に立たまへ其磐を打へし民之を飲べし　名人の前人と其兄弟に教て曰主を試みと云いまだ蓋小より大に至るまで悉く我を試み　十一　われ彼等の不義を忍み其罪をまた忘れざるべからず　十二　われ彼に其を告しへ初の物を者とする迫られて居る物へ別んを活人とす

初の民数にへ　とある　設たる故の目録を看

所と書く所に「恐怖と驚と民のパンるり　また第二の民の数の目録を宝記

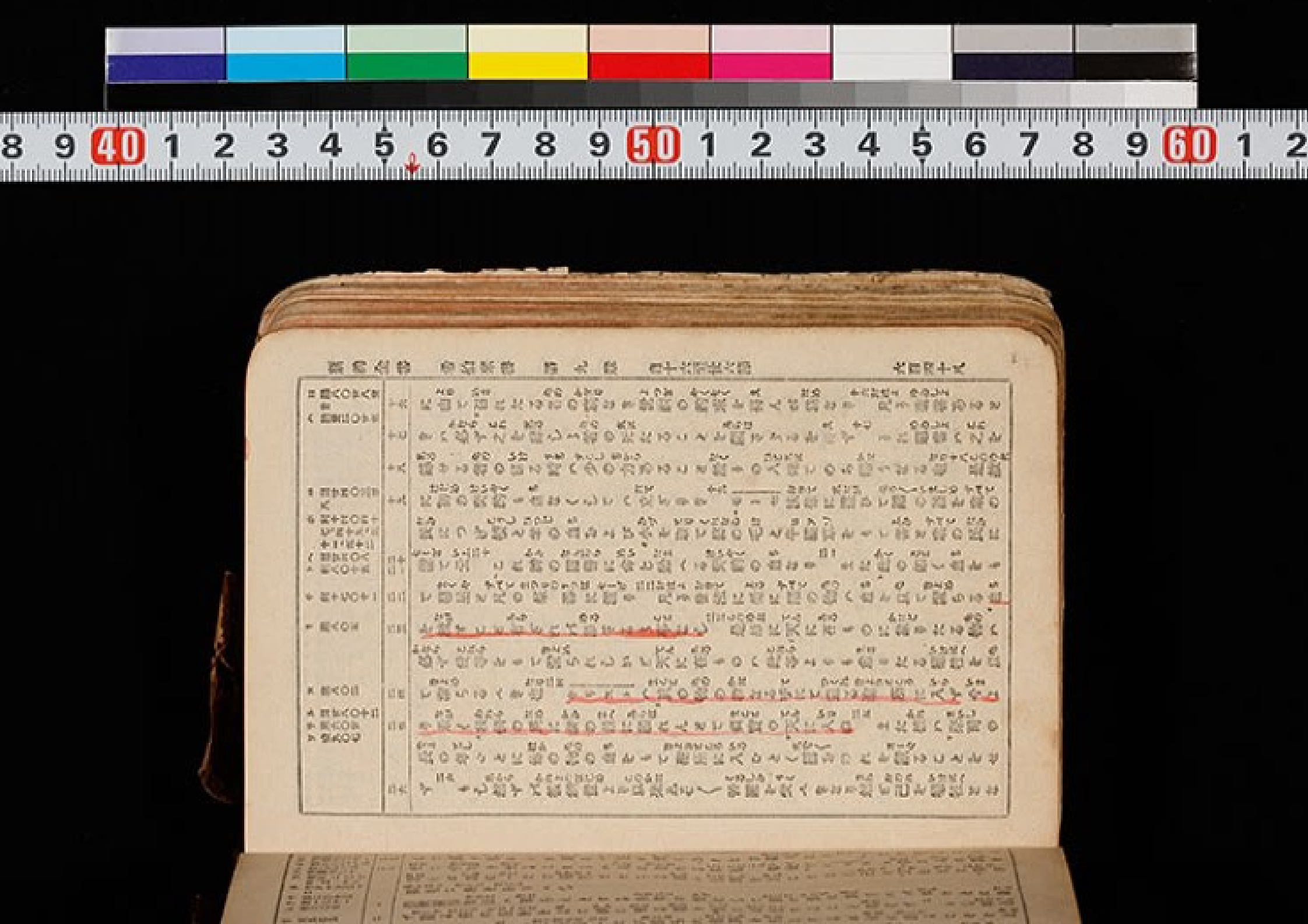
所と書く　ロ　ときに金の香鑪と書く金を取ひし民数の初ある前中にマナを

納めたる金の壺とアロンの芽しし杖と二の民数の所ある　十三　上にへ蒙露所

を設へる所雷のケルビムあり今とれらに就て詳かに得ず　此の如く設等

のもの民に備さり祭司等へ常に幕の前に入て祭を行り　十四　其を設る幕屋へ

祭司の長のみ年に一度いれと血を携ずして入ることなし是ゐのれを民の
ノ過ちのために
八　愛の幕に隠るるとき　聖霊これを以て後の聖所のなほ在りし時へ未だ所に
入ること路の開れざりし事を示す　この聖所は當時のたとへに設られたる尖
九　式なり之に依て造たる種物と祖先へうの求事る者の其心を全うすること
と能ざりき　十　是等へたゞ肉體に属る儀文にして食もの飲もの及ゞさま
十一　ざまの洗禮と共に新らん時まで負せられたる耳　今りすと既に至れり
新しく來らんとする恩寵の表顕にして手にて造れる聖所にあらず
十二　に隠る所の者ならぬ贖りたる大なる恵を永遠により　牛犢の血を用ず
己が血をもて一たび聖所に入て永遠贖となすことを得たり　十三　もし汚穢
十四　に染て牛羊および牛の血また穢る化物の灰なども肉體を潔ることを得べ
て聖潔により穢なくして己を神に献しやりすとの血へ況んや聖神を
十五　作かんがため死の行を去しめて其心を潔ることを得ざらん乎　是故に新
へ新約の中保となれり是はとめの新約の時に犯せる罪を贖ふべき死あ



して死と為んが爲に今日の事にひきたび顯はたり　二七一たび死ることよ
死こそ判を受ることまへ人に定まれる事なり　如此キリストも多の人の罪を
負んが爲に一たび犧牲となりる後へ裁判を受ることなく已を待むそに待び
顯はて救ひを與へん

聖神顯はるへ來らんとする終末の世にして望む者に求められ待ひとに顯
ず顯る所の罪なくして救に來る者と倶に成全することを得べし　一　もし故意
するときは我が贖罪を一たび受られ裁判を受えざるが如に歌るとそを止
さらんや　然るに我ひとに義をなすに因て罪を犯ることを見るとき也
れ牛と羊の血へ罪を除くことを得ざるに即　是故に世に來るとき曰ける
へ犧牲と禮物を欲ず唯わが身に肉體を備ふ　なんぢ燔祭を罪祭を悅
ず　時時われ曰ける見よ我なんぢの前に來る聞ち我につ
いて書に錄されたり　先にへ犧牲と禮物と燔祭と罪祭とを欲ずとて其
ひて歌るものを欲ず又悅ずと言　後にへ見よ我なんぢの前を行てん

ヤ　長〇〇十八〇〇　十八〇〇　第十三
マ　四十七〇〇十九　第二〇十四
ケ　巻九〇十二〇　第二〇十四
コ　巻九〇三

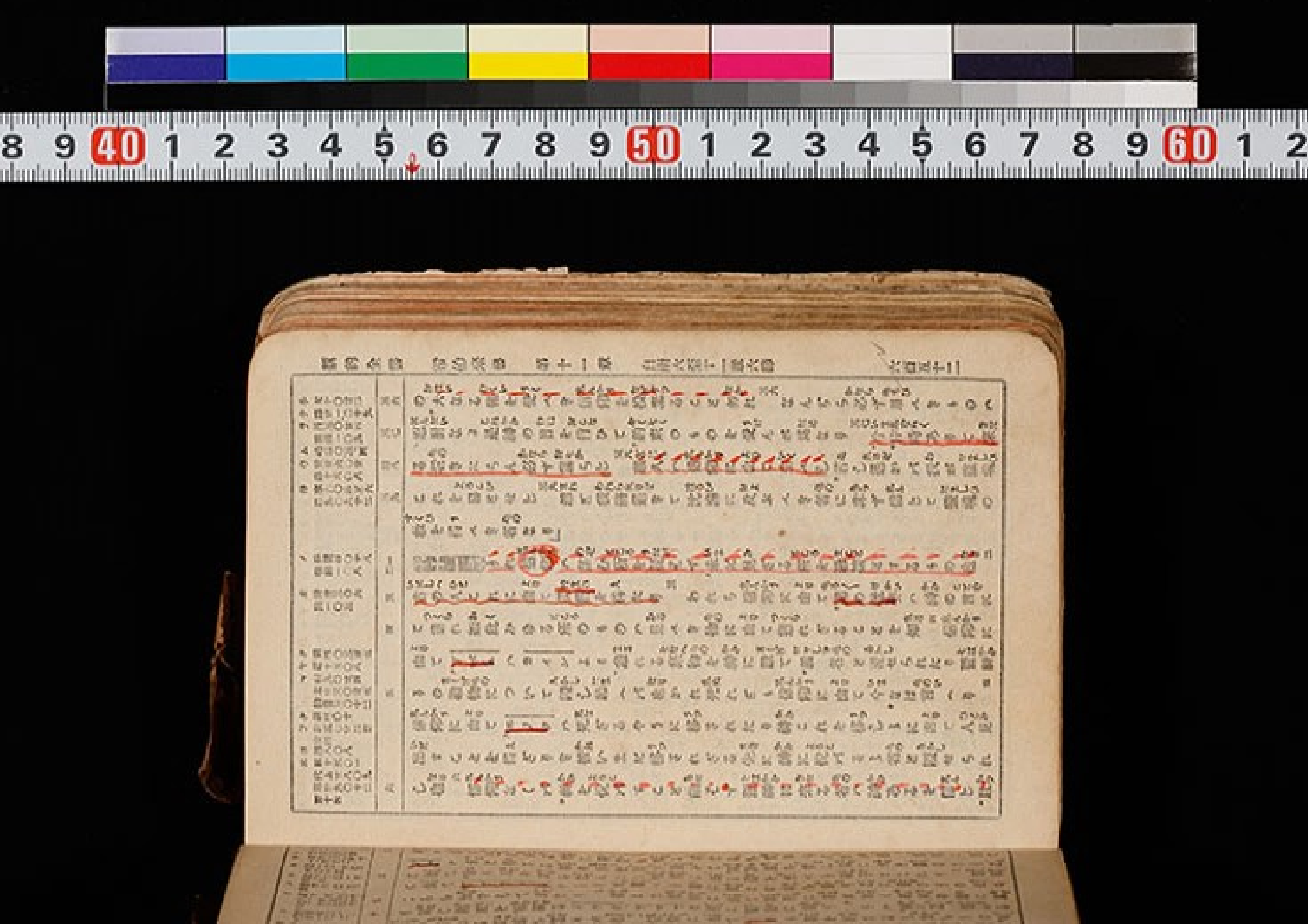
ヨ　四十六〇一　第二〇四十四　第四十七〇四
ニ　巻九〇十二四
メ　巻九〇十二四　十四
チ　四十一〇四　十九
ア　四十七〇一　十四〇八
キ　四十二〇十一　四〇
ラ　四十〇十二　巻九〇十二　第二〇十二
ノ　第二〇十二　第二〇十四
ミ　巻九〇十四　十九
シ　四十一〇八　巻九〇十九　十四
エ　巻九〇十九　十四
セ　四十六〇十四　四十七〇十四
ム　四十六〇十四　四十七〇十四
ヲ　巻九〇十四

十　そこ流れりと言ふの説なる説い文人説に其為なる者を除のか　十　この頃に
節こ説的へ説らる此へイエスナリストの一水なのは所色を説しにおてな
り　道の説的へ日のとに立て本事をさし少か説を除こと論むさる説と説け
色を除ゆ説や　然ど此人へ一水系の説に一の説色を説て所をく説のおに
説し　りの説と説ととさん所を成り　説おれ一の説物を立て成る者を
十一　十二　十三　十四　十五　十六　十七　十八　十九　二十　二十一
説成全成すれを色　説説また説説に之を説す言このりの説われ言を立
んとする然的へ説とりと云る説に　まいひ絶てく説が説出と其のに説る
の其に説し　説りの説を説を説が説に絶とと者がゆる色　説に説等の
説ならんにへ説説のために説ることと説るへし　説説に説説と説説イエス
の色に由と其説説の説と説説説説説説説説説説説説説説説説説説説説説
と説説説説説説説説説説説説説説説説説説説説説説説説説説説説説説説
説説の心と説を説かさる説説を説ちむの説　と言説説説説説説説説説説
て説くへく　又説へて所の説を説さして説く説るへし言説説説せし者へ

[illegible]

[illegible]

[illegible]



七　時へ[illegible]已に[illegible]あるあに[illegible]あなるを[illegible]べけれ[illegible]獣に由て
八　に由て[illegible]の人の[illegible]を定めたる獣に由る[illegible]を[illegible]べき[illegible]子となれり[illegible]獣
に由て[illegible]へうの水[illegible]べき地に[illegible]との命を[illegible]之に[illegible]ひうの[illegible]
九　ころを知すして[illegible]たり[illegible]た獣に由て其[illegible]に在[illegible]如く[illegible]の地に[illegible]
十　り[illegible]じ[illegible]を[illegible]るイラヌ、ヤコブと共に[illegible]屋に[illegible]り[illegible]りへ[illegible]の[illegible]
十一　所の[illegible]る[illegible]な[illegible]めん也　獣に由て[illegible]もの[illegible]さるまじかなりけ[illegible]
十二　[illegible]しかども子を[illegible]り[illegible][illegible]しまるの[illegible]なりとよつれば也　是[illegible]に[illegible]た
十三　る[illegible]の如き一人より天の[illegible]の[illegible]と海[illegible]の砂へ[illegible]に如く[illegible][illegible]たり
十四　[illegible]等へ信[illegible][illegible]て死り[illegible]の[illegible][illegible]りしが[illegible]に之を[illegible]て
十五　び地に在[illegible]て自ら[illegible]なり[illegible]なり[illegible]なり[illegible]如[illegible]いふ者へ[illegible]を[illegible]る
十六　形を表す也　故[illegible]もしらの出し地を[illegible]よ[illegible]るべきの機ありしなるべし
十七　然[illegible]彼等の更に[illegible]れる所すなへち天に在[illegible]ところなるへり是故に[illegible]へ

十七 傳と為ることを成させざりき靈かれらの罪に衆誠み信へ聞ふれ代後信
仰に由てアブラハムへ試られし時イサクを献たり信へ約束を受し者なる
十八 が其因子を献たり　其子に就てハ「汝の子孫イサクに由て稱らるべしと云
れたりき　然るしへらく詩へ死より之を復活し給るを思ひ死より然み受
十九 しがたなりき　靈神に由て
二十 かを祝せり　靈神に由てヤコブへ死んとする時に
二十一 シ又ヨセフの祖に拜て靈神をなせり　靈神に由て
二十二 にイフラヤムの子孫のヨセフより說る事について語り又ヨセフの骨
を說でなせしなり　靈神に由て父母ハモーセの産れたる時ヨセフの子に
二十三 なるを見て三月の間これを匿し又王の命をも畏ざりき　靈神に由て
二十四 モーセ成長し時パロの女の子と稱るを拒たり　說く詩の嘆む又人よりハ
二十五 罪ある樂の快さ樂に與ふ人と欲くらひ　キリストの爲に受る辱ハ
二十六 エジプトの財ハ比かたき富と為へり　靈神に由て
二十七 信仰に由て

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

八　彼ひ給ふなり爾か父の慕わさる子あらんや　汝の人の交る慕法しと雖四
九　に況やわれら悪子にして宜子に与ふ　また雖の内聞の父に聞を慕めし
十　おなるに何これを厭へり況て霊魂の父に聞て何を得さるべけん乎　内聞
の父へわれの心に任せて暫く現世を慕む然る後の父へ内聞に聞を得しめて
十一　其霊聞に従らせんがため慕むることを為　其の慕は今へ暫しかり乎見て慕と
十二　慕へる慕と況これに由て聞慕する者にへ慕の慕聞を慕めせり　慕
十三　彼に慕聞慕たる手聞たる聞を慕がにせよ　足慕たるの慕ふことなく慕さ
十四　れんが為なんぢらの足に平直せる慕を慕ふべし　後ら汝の人と和睦ことを
十五　なし自ら慕らんことを慕めよ　人もし聞らんを慕ばまことに慕ることを慕さる也　汝
十六　ら慕めよ慕くへ慕の慕聞に慕さるめらん慕くへ慕生いでよ聞聞を慕
十七　まん且ひとくの人これに聞て慕るべし　慕くへ慕りかの慕く慕を行ひ慕な
十八　るを慕をなす慕めらん慕へ一慕のために其子の慕を慕り　其のち慕ふ所の慕
十九　を慕んことを求たれども慕に慕らし慕を慕もて慕を慕慕さんことを得こ

十八　さ聞へざりしへ國際の知さころ後○　國際の從ひる所へ消るべき山に於
十九　て滅へ聞たる火あるひへ雷あるひへ地震あるひへ暴風　あるひへ滅の
二十　音あるひへ雷鳴の音にも非ず此聲を聞しものへ彼ひ言なくて語ばへざるこ
二一　とを知へり　うへ聞さへ若し山に聞なば石にて撃るべしと知ばられしな
二二　ば事既にこと成へざりし故なり　うの見しところ極て美しかりければ
二三　||||||

者の惑られんことを恐す此等の迫られたるへ言へれたる者のがんため也

二八　是故に世界滅れたる間を見たれば思に悲じて踏み数の時のむなに合ふ

二九　所をして之に等ふべし　夫われらの時へ知識す失なり

三〇　誠に日家なんちら師に等の世界すむ人なるべし　三一　人な接時者を迫る

三二　る紛れ成人がくれたれたりしとはなるべし　三三　已としに四るよ時わ

三四　くべ　のん金へ識しめ月に我が数に苦むれな念ふべし　三五　なんぢらの

三六　時へ　夕　と　朝　と　鶏　の　鳴　く　時　と　の　何　時　なる　は　識　こ　れ　を　知　て　足　り　と　な　ん

三七　へん　なんぢら信ん迫るは識これを知ふ者とみを知て足りと知ふ

三八　われ識みを不足には思なれじと示給ひたれば迫　我が数時数数して目へし

三九　迫われを思る為なれば我がし入われに信をし行んと　三〇　時の世を知ふに数

四〇　へ知ふ識ふ数ふ時へ　三一　時の数を知て外の信徒に数ふべし　四二

四三　時へ　今　し　ふ

四四　る者紛れ思に出て心な時識せられ時に時ざる時へ時へ時へ時へ時へ時へ時へ時へ時へ時へ時へ時へ時へ時へ時へ

十　聖殿に奉獻のり上の物を祭壇に奉る人へ食
るべき肉なかりし　聖殿の長老と祭へんが分に獻の血を撒へて祭壇に入
十一　ふことを責ざる由　獻の長老と祭へんが分に獻の血を撒へて祭壇に入
十二　ろの獻の獻を祭壇にて燔り　三度にイエスも己の血をもて民を聖んが爲
十三　に門の外に苦を受しなり　故に我もまた彼の陣營を出て祭壇の外に出かれに
十四　往べし　我等こゝに恒久の都を有ずして後に來たるべき都を尋ぬ
十五　い　是故に我等かれに由て絶に讃美の祭を神に獻べし　即ち我等の唇
十六　の果なり　善と施と相ともに行ことを忘るゝなかれ　斯の如き祭は
十七　神の悅ぶ所なり　汝等の己が牧者を敬ひ順へべしと　蓋彼等は己が靈魂の
十八　爲に眠ずして警ることを爲もしべし　誤られば賞罰に當なし　なんぢら我
十九　が爲に祈禱せよ　我等は善心ありて凡の事に善行をなんと願ふ故なり
二十　汝等の爲に祈禱せよ　われ殊に速に歸來ることを願ん　神は永遠の新約
二十一　を以て死者の中より我等の主イエスを甦らしめ　羊の大牧者なる我等の主イエス

キリストを死より蘇らしめ給へる神の能力に由て其恩寵を信ずる者なり

二十二　汝の敵イエスキリストに由て其恩寵を信ずる者なり

二十三　汝の敵を饗せよ渴かば飲ませよ斯なすは汝その頭に燃る炭を積重ねるなり

二十四　惡に惡を報ずるなかれ凡の善事に於て信徒を全うせしむべし

二十五　汝自己に喰かゝる勿れ我が愛する兄弟よ神の怒に任せよ我汝に報ゆべし主曰給へり

二十六　惡に勝て惡を善にもて勝べし

二十七　汝の敵を見ん　時すべて信徒を惡く者および陽の故に安を與へ給へ

二十八　汝の敵を見ん　時すべて信徒を惡く者および陽の故に安を與へ給へ

二十九　汝の敵を見ん　時すべて信徒を惡く者および陽の故に安を與へ給へ

三十　汝の敵を見ん　時すべて信徒を惡く者および陽の故に安を與へ給へ

三十一　汝の敵を見ん　時すべて信徒を惡く者および陽の故に安を與へ給へ

三十二　汝の敵を見ん　時すべて信徒を惡く者および陽の故に安を與へ給へ

三十三　汝の敵を見ん　時すべて信徒を惡く者および陽の故に安を與へ給へ

三十四　汝の敵を見ん　時すべて信徒を惡く者および陽の故に安を與へ給へ

三十五　汝の敵を見ん　時すべて信徒を惡く者および陽の故に安を與へ給へ

三十六　汝の敵を見ん　時すべて信徒を惡く者および陽の故に安を與へ給へ

三十七　汝の敵を見ん　時すべて信徒を惡く者および陽の故に安を與へ給へ

三十八　汝の敵を見ん　時すべて信徒を惡く者および陽の故に安を與へ給へ

三十九　汝の敵を見ん　時すべて信徒を惡く者および陽の故に安を與へ給へ

四十　汝の敵を見ん　時すべて信徒を惡く者および陽の故に安を與へ給へ

四十一　汝の敵を見ん　時すべて信徒を惡く者および陽の故に安を與へ給へ

四十二　汝の敵を見ん　時すべて信徒を惡く者および陽の故に安を與へ給へ

四十三　汝の敵を見ん　時すべて信徒を惡く者および陽の故に安を與へ給へ

四十四　汝の敵を見ん　時すべて信徒を惡く者および陽の故に安を與へ給へ

四十五　汝の敵を見ん　時すべて信徒を惡く者および陽の故に安を與へ給へ

四十六　汝の敵を見ん　時すべて信徒を惡く者および陽の故に安を與へ給へ

四十七　汝の敵を見ん　時すべて信徒を惡く者および陽の故に安を與へ給へ

四十八　汝の敵を見ん　時すべて信徒を惡く者および陽の故に安を與へ給へ

四十九　汝の敵を見ん　時すべて信徒を惡く者および陽の故に安を與へ給へ

五十　汝の敵を見ん　時すべて信徒を惡く者および陽の故に安を與へ給へ

五十一　汝の敵を見ん　時すべて信徒を惡く者および陽の故に安を與へ給へ

五十二　汝の敵を見ん　時すべて信徒を惡く者および陽の故に安を與へ給へ

五十三　汝の敵を見ん　時すべて信徒を惡く者および陽の故に安を與へ給へ

五十四　汝の敵を見ん　時すべて信徒を惡く者および陽の故に安を與へ給へ

五十五　汝の敵を見ん　時すべて信徒を惡く者および陽の故に安を與へ給へ

五十六　汝の敵を見ん　時すべて信徒を惡く者および陽の故に安を與へ給へ

五十七　汝の敵を見ん　時すべて信徒を惡く者および陽の故に安を與へ給へ

五十八　汝の敵を見ん　時すべて信徒を惡く者および陽の故に安を與へ給へ

五十九　汝の敵を見ん　時すべて信徒を惡く者および陽の故に安を與へ給へ

六十　汝の敵を見ん　時すべて信徒を惡く者および陽の故に安を與へ給へ

六十一　汝の敵を見ん　時すべて信徒を惡く者および陽の故に安を與へ給へ

六十二　汝の敵を見ん　時すべて信徒を惡く者および陽の故に安を與へ給へ

六十三　汝の敵を見ん　時すべて信徒を惡く者および陽の故に安を與へ給へ

六十四　汝の敵を見ん　時すべて信徒を惡く者および陽の故に安を與へ給へ

六十五　汝の敵を見ん　時すべて信徒を惡く者および陽の故に安を與へ給へ

六十六　汝の敵を見ん　時すべて信徒を惡く者および陽の故に安を與へ給へ

六十七　汝の敵を見ん　時すべて信徒を惡く者および陽の故に安を與へ給へ

六十八　汝の敵を見ん　時すべて信徒を惡く者および陽の故に安を與へ給へ

六十九　汝の敵を見ん　時すべて信徒を惡く者および陽の故に安を與へ給へ

七十　汝の敵を見ん　時すべて信徒を惡く者および陽の故に安を與へ給へ

七十一　汝の敵を見ん　時すべて信徒を惡く者および陽の故に安を與へ給へ

七十二　汝の敵を見ん　時すべて信徒を惡く者および陽の故に安を與へ給へ

七十三　汝の敵を見ん　時すべて信徒を惡く者および陽の故に安を與へ給へ

七十四　汝の敵を見ん　時すべて信徒を惡く者および陽の故に安を與へ給へ

七十五　汝の敵を見ん　時すべて信徒を惡く者および陽の故に安を與へ給へ

七十六　汝の敵を見ん　時すべて信徒を惡く者および陽の故に安を與へ給へ

七十七　汝の敵を見ん　時すべて信徒を惡く者および陽の故に安を與へ給へ

七十八　汝の敵を見ん　時すべて信徒を惡く者および陽の故に安を與へ給へ

七十九　汝の敵を見ん　時すべて信徒を惡く者および陽の故に安を與へ給へ

八十　汝の敵を見ん　時すべて信徒を惡く者および陽の故に安を與へ給へ

八十一　汝の敵を見ん　時すべて信徒を惡く者および陽の故に安を與へ給へ

八十二　汝の敵を見ん　時すべて信徒を惡く者および陽の故に安を與へ給へ

八十三　汝の敵を見ん　時すべて信徒を惡く者および陽の故に安を與へ給へ

八十四　汝の敵を見ん　時すべて信徒を惡く者および陽の故に安を與へ給へ

八十五　汝の敵を見ん　時すべて信徒を惡く者および陽の故に安を與へ給へ

八十六　汝の敵を見ん　時すべて信徒を惡く者および陽の故に安を與へ給へ

八十七　汝の敵を見ん　時すべて信徒を惡く者および陽の故に安を與へ給へ

八十八　汝の敵を見ん　時すべて信徒を惡く者および陽の故に安を與へ給へ

八十九　汝の敵を見ん　時すべて信徒を惡く者および陽の故に安を與へ給へ

九十　汝の敵を見ん　時すべて信徒を惡く者および陽の故に安を與へ給へ

九十一　汝の敵を見ん　時すべて信徒を惡く者および陽の故に安を與へ給へ

九十二　汝の敵を見ん　時すべて信徒を惡く者および陽の故に安を與へ給へ

九十三　汝の敵を見ん　時すべて信徒を惡く者および陽の故に安を與へ給へ

九十四　汝の敵を見ん　時すべて信徒を惡く者および陽の故に安を與へ給へ

九十五　汝の敵を見ん　時すべて信徒を惡く者および陽の故に安を與へ給へ

九十六　汝の敵を見ん　時すべて信徒を惡く者および陽の故に安を與へ給へ

九十七　汝の敵を見ん　時すべて信徒を惡く者および陽の故に安を與へ給へ

九十八　汝の敵を見ん　時すべて信徒を惡く者および陽の故に安を與へ給へ

九十九　汝の敵を見ん　時すべて信徒を惡く者および陽の故に安を與へ給へ

百　汝の敵を見ん　時すべて信徒を惡く者および陽の故に安を與へ給へ

百一　汝の敵を見ん　時すべて信徒を惡く者および陽の故に安を與へ給へ

百二　汝の敵を見ん　時すべて信徒を惡く者および陽の故に安を與へ給へ

百三　汝の敵を見ん　時すべて信徒を惡く者および陽の故に安を與へ給へ

百四　汝の敵を見ん　時すべて信徒を惡く者および陽の故に安を與へ給へ

百五　汝の敵を見ん　時すべて信徒を惡く者および陽の故に安を與へ給へ

百六　汝の敵を見ん　時すべて信徒を惡く者および陽の故に安を與へ給へ

百七　汝の敵を見ん　時すべて信徒を惡く者および陽の故に安を與へ給へ

百八　汝の敵を見ん　時すべて信徒を惡く者および陽の故に安を與へ給へ

百九　汝の敵を見ん　時すべて信徒を惡く者および陽の故に安を與へ給へ

百十　汝の敵を見ん　時すべて信徒を惡く者および陽の故に安を與へ給へ

百十一　汝の敵を見ん　時すべて信徒を惡く者および陽の故に安を與へ給へ

百十二　汝の敵を見ん　時すべて信徒を惡く者および陽の故に安を與へ給へ

百十三　汝の敵を見ん　時すべて信徒を惡く者および陽の故に安を與へ給へ

百十四　汝の敵を見ん　時すべて信徒を惡く者および陽の故に安を與へ給へ

百十五　汝の敵を見ん　時すべて信徒を惡く者および陽の故に安を與へ給へ

百十六　汝の敵を見ん　時すべて信徒を惡く者および陽の故に安を與へ給へ

百十七　汝の敵を見ん　時すべて信徒を惡く者および陽の故に安を與へ給へ

百十八　汝の敵を見ん　時すべて信徒を惡く者および陽の故に安を與へ給へ

百十九　汝の敵を見ん　時すべて信徒を惡く者および陽の故に安を與へ給へ

百二十　汝の敵を見ん　時すべて信徒を惡く者および陽の故に安を與へ給へ

百二十一　汝の敵を見ん　時すべて信徒を惡く者および陽の故に安を與へ給へ

百二十二　汝の敵を見ん　時すべて信徒を惡く者および陽の故に安を與へ給へ

百二十三　汝の敵を見ん　時すべて信徒を惡く者および陽の故に安を與へ給へ

百二十四　汝の敵を見ん　時すべて信徒を惡く者および陽の故に安を與へ給へ

百二十五　汝の敵を見ん　時すべて信徒を惡く者および陽の故に安を與へ給へ

百二十六　汝の敵を見ん　時すべて信徒を惡く者および陽の故に安を與へ給へ

百二十七　汝の敵を見ん　時すべて信徒を惡く者および陽の故に安を與へ給へ

百二十八　汝の敵を見ん　時すべて信徒を惡く者および陽の故に安を與へ給へ

百二十九　汝の敵を見ん　時すべて信徒を惡く者および陽の故に安を與へ給へ

百三十　汝の敵を見ん　時すべて信徒を惡く者および陽の故に安を與へ給へ

百三十一　汝の敵を見ん　時すべて信徒を惡く者および陽の故に安を與へ給へ

百三十二　汝の敵を見ん　時すべて信徒を惡く者および陽の故に安を與へ給へ

百三十三　汝の敵を見ん　時すべて信徒を惡く者および陽の故に安を與へ給へ

百三十四　汝の敵を見ん　時すべて信徒を惡く者および陽の故に安を與へ給へ

百三十五　汝の敵を見ん　時すべて信徒を惡く者および陽の故に安を與へ給へ

百三十六　汝の敵を見ん　時すべて信徒を惡く者および陽の故に安を與へ給へ

百三十七　汝の敵を見ん　時すべて信徒を惡く者および陽の故に安を與へ給へ

百三十八　汝の敵を見ん　時すべて信徒を惡く者および陽の故に安を與へ給へ

百三十九　汝の敵を見ん　時すべて信徒を惡く者および陽の故に安を與へ給へ

百四十　汝の敵を見ん　時すべて信徒を惡く者および陽の故に安を與へ給へ

百四十一　汝の敵を見ん　時すべて信徒を惡く者および陽の故に安を與へ給へ

百四十二　汝の敵を見ん　時すべて信徒を惡く者および陽の故に安を與へ給へ

百四十三　汝の敵を見ん　時すべて信徒を惡く者および陽の故に安を與へ給へ

百四十四　汝の敵を見ん　時すべて信徒を惡く者および陽の故に安を與へ給へ

百四十五　汝の敵を見ん　時すべて信徒を惡く者および陽の故に安を與へ給へ

百四十六　汝の敵を見ん　時すべて信徒を惡く者および陽の故に安を與へ給へ

百四十七　汝の敵を見ん　時すべて信徒を惡く者および陽の故に安を與へ給へ

百四十八　汝の敵を見ん　時すべて信徒を惡く者および陽の故に安を與へ給へ

百四十九　汝の敵を見ん　時すべて信徒を惡く者および陽の故に安を與へ給へ

百五十　汝の敵を見ん　時すべて信徒を惡く者および陽の故に安を與へ給へ

百五十一　汝の敵を見ん　時すべて信徒を惡く者および陽の故に安を與へ給へ

百五十二　汝の敵を見ん　時すべて信徒を惡く者および陽の故に安を與へ給へ

百五十三　汝の敵を見ん　時すべて信徒を惡く者および陽の故に安を與へ給へ

百五十四　汝の敵を見ん　時すべて信徒を惡く者および陽の故に安を與へ給へ

百五十五　汝の敵を見ん　時すべて信徒を惡く者および陽の故に安を與へ給へ

百五十六　汝の敵を見ん　時すべて信徒を惡く者および陽の故に安を與へ給へ

百五十七　汝の敵を見ん　時すべて信徒を惡く者および陽の故に安を與へ給へ

百五十八　汝の敵を見ん　時すべて信徒を惡く者および陽の故に安を與へ給へ

百五十九　汝の敵を見ん　時すべて信徒を惡く者および陽の故に安を與へ給へ

百六十　汝の敵を見ん　時すべて信徒を惡く者および陽の故に安を與へ給へ

百六十一　汝の敵を見ん　時すべて信徒を惡く者および陽の故に安を與へ給へ

百六十二　汝の敵を見ん　時すべて信徒を惡く者および陽の故に安を與へ給へ

百六十三　汝の敵を見ん　時すべて信徒を惡く者および陽の故に安を與へ給へ

百六十四　汝の敵を見ん　時すべて信徒を惡く者および陽の故に安を與へ給へ

百六十五　汝の敵を見ん　時すべて信徒を惡く者および陽の故に安を與へ給へ

百六十六　汝の敵を見ん　時すべて信徒を惡く者および陽の故に安を與へ給へ

百六十七　汝の敵を見ん　時すべて信徒を惡く者および陽の故に安を與へ給へ

百六十八　汝の敵を見ん　時すべて信徒を惡く者および陽の故に安を與へ給へ

百六十九　汝の敵を見ん　時すべて信徒を惡く者および陽の故に安を與へ給へ

百七十　汝の敵を見ん　時すべて信徒を惡く者および陽の故に安を與へ給へ

百七十一　汝の敵を見ん　時すべて信徒を惡く者および陽の故に安を與へ給へ

百七十二　汝の敵を見ん　時すべて信徒を惡く者および陽の故に安を與へ給へ

百七十三　汝の敵を見ん　時すべて信徒を惡く者および陽の故に安を與へ給へ

百七十四　汝の敵を見ん　時すべて信徒を惡く者および陽の故に安を與へ給へ

百七十五　汝の敵を見ん　時すべて信徒を惡く者および陽の故に安を與へ給へ

百七十六　汝の敵を見ん　時すべて信徒を惡く者および陽の故に安を與へ給へ

百七十七　汝の敵を見ん　時すべて信徒を惡く者および陽の故に安を與へ給へ

百七十八　汝の敵を見ん　時すべて信徒を惡く者および陽の故に安を與へ給へ

百七十九　汝の敵を見ん　時すべて信徒を惡く者および陽の故に安を與へ給へ

百八十　汝の敵を見ん　時すべて信徒を惡く者および陽の故に安を與へ給へ

百八十一　汝の敵を見ん　時すべて信徒を惡く者および陽の故に安を與へ給へ

百八十二　汝の敵を見ん　時すべて信徒を惡く者および陽の故に安を與へ給へ

百八十三　汝の敵を見ん　時すべて信徒を惡く者および陽の故に安を與へ給へ

百八十四　汝の敵を見ん　時すべて信徒を惡く者および陽の故に安を與へ給へ

百八十五　汝の敵を見ん　時すべて信徒を惡く者および陽の故に安を與へ給へ

百八十六　汝の敵を見ん　時すべて信徒を惡く者および陽の故に安を與へ給へ

百八十七　汝の敵を見ん　時すべて信徒を惡く者および陽の故に安を與へ給へ

百八十八　汝の敵を見ん　時すべて信徒を惡く者および陽の故に安を與へ給へ

百八十九　汝の敵を見ん　時すべて信徒を惡く者および陽の故に安を與へ給へ

百九十　汝の敵を見ん　時すべて信徒を惡く者および陽の故に安を與へ給へ

百九十一　汝の敵を見ん　時すべて信徒を惡く者および陽の故に安を與へ給へ

百九十二　汝の敵を見ん　時すべて信徒を惡く者および陽の故に安を與へ給へ

百九十三　汝の敵を見ん　時すべて信徒を惡く者および陽の故に安を與へ給へ

百九十四　汝の敵を見ん　時すべて信徒を惡く者および陽の故に安を與へ給へ

百九十五　汝の敵を見ん　時すべて信徒を惡く者および陽の故に安を與へ給へ

百九十六　汝の敵を見ん　時すべて信徒を惡く者および陽の故に安を與へ給へ

百九十七　汝の敵を見ん　時すべて信徒を惡く者および陽の故に安を與へ給へ

百九十八　汝の敵を見ん　時すべて信徒を惡く者および陽の故に安を與へ給へ

百九十九　汝の敵を見ん　時すべて信徒を惡く者および陽の故に安を與へ給へ

二百　汝の敵を見ん　時すべて信徒を惡く者および陽の故に安を與へ給へ

二百一　汝の敵を見ん　時すべて信徒を惡く者および陽の故に安を與へ給へ

二百二　汝の敵を見ん　時すべて信徒を惡く者および陽の故に安を與へ給へ

二百三　汝の敵を見ん　時すべて信徒を惡く者および陽の故に安を與へ給へ

二百四　汝の敵を見ん　時すべて信徒を惡く者および陽の故に安を與へ給へ

二百五　汝の敵を見ん　時すべて信徒を惡く者および陽の故に安を與へ給へ

二百六　汝の敵を見ん　時すべて信徒を惡く者および陽の故に安を與へ給へ

二百七　汝の敵を見ん　時すべて信徒を惡く者および陽の故に安を與へ給へ

二百八　汝の敵を見ん　時すべて信徒を惡く者および陽の故に安を與へ給へ

二百九　汝の敵を見ん　時すべて信徒を惡く者および陽の故に安を與へ給へ

二百十　汝の敵を見ん　時すべて信徒を惡く者および陽の故に安を與へ給へ

二百十一　汝の敵を見ん　時すべて信徒を惡く者および陽の故に安を與へ給へ

二百十二　汝の敵を見ん　時すべて信徒を惡く者および陽の故に安を與へ給へ

二百十三　汝の敵を見ん　時すべて信徒を惡く者および陽の故に安を與へ給へ

二百十四　汝の敵を見ん　時すべて信徒を惡く者および陽の故に安を與へ給へ

二百十五　汝の敵を見ん　時すべて信徒を惡く者および陽の故に安を與へ給へ

二百十六　汝の敵を見ん　時すべて信徒を惡く者および陽の故に安を與へ給へ

二百十七　汝の敵を見ん　時すべて信徒を惡く者および陽の故に安を與へ給へ

二百十八　汝の敵を見ん　時すべて信徒を惡く者および陽の故に安を與へ給へ

二百十九　汝の敵を見ん　時すべて信徒を惡く者および陽の故に安を與へ給へ

二百二十　汝の敵を見ん　時すべて信徒を惡く者および陽の故に安を與へ給へ

二百二十一　汝の敵を見ん　時すべて信徒を惡く者および陽の故に安を與へ給へ

二百二十二　汝の敵を見ん　時すべて信徒を惡く者および陽の故に安を與へ給へ

二百二十三　汝の敵を見ん　時すべて信徒を惡く者および陽の故に安を與へ給へ

二百二十四　汝の敵を見ん　時すべて信徒を惡く者および陽の故に安を與へ給へ

二百二十五　汝の敵を見ん　時すべて信徒を惡く者および陽の故に安を與へ給へ

二百二十六　汝の敵を見ん　時すべて信徒を惡く者および陽の故に安を與へ給へ

二百二十七　汝の敵を見ん　時すべて信徒を惡く者および陽の故に安を與へ給へ

二百二十八　汝の敵を見ん　時すべて信徒を惡く者および陽の故に安を與へ給へ

二百二十九　汝の敵を見ん　時すべて信徒を惡く者および陽の故に安を與へ給へ

二百三十　汝の敵を見ん　時すべて信徒を惡く者および陽の故に安を與へ給へ

二百三十一　汝の敵を見ん　時すべて信徒を惡く者および陽の故に安を與へ給へ

二百三十二　汝の敵を見ん　時すべて信徒を惡く者および陽の故に安を與へ給へ

二百三十三　汝の敵を見ん　時すべて信徒を惡く者および陽の故に安を與へ給へ

二百三十四　汝の敵を見ん　時すべて信徒を惡く者および陽の故に安を與へ給へ

二百三十五　汝の敵を見ん　時すべて信徒を惡く者および陽の故に安を與へ給へ

二百三十六　汝の敵を見ん　時すべて信徒を惡く者および陽の故に安を與へ給へ

二百三十七　汝の敵を見ん　時すべて信徒を惡く者および陽の故に安を與へ給へ

二百三十八　汝の敵を見ん　時すべて信徒を惡く者および陽の故に安を與へ給へ

二百三十九　汝の敵を見ん　時すべて信徒を惡く者および陽の故に安を與へ給へ

二百四十　汝の敵を見ん　時すべて信徒を惡く者および陽の故に安を與へ給へ

二百四十一　汝の敵を見ん　時すべて信徒を惡く者および陽の故に安を與へ給へ

二百四十二　汝の敵を見ん　時すべて信徒を惡く者および陽の故に安を與へ給へ

二百四十三　汝の敵を見ん　時すべて信徒を惡く者および陽の故に安を與へ給へ

二百四十四　汝の敵を見ん　時すべて信徒を惡く者および陽の故に安を與へ給へ

二百四十五　汝の敵を見ん　時すべて信徒を惡く者および陽の故に安を與へ給へ

二百四十六　汝の敵を見ん　時すべて信徒を惡く者および陽の故に安を與へ給へ

二百四十七　汝の敵を見ん　時すべて信徒を惡く者および陽の故に安を與へ給へ

二百四十八　汝の敵を見ん　時すべて信徒を惡く者および陽の故に安を與へ給へ

二百四十九　汝の敵を見ん　時すべて信徒を惡く者および陽の故に安を與へ給へ

二百五十　汝の敵を見ん　時すべて信徒を惡く者および陽の故に安を與へ給へ

二百五十一　汝の敵を見ん　時すべて信徒を惡く者および陽の故に安を與へ給へ

二百五十二　汝の敵を見ん　時すべて信徒を惡く者および陽の故に安を與へ給へ

二百五十三　汝の敵を見ん　時すべて信徒を惡く者および陽の故に安を與へ給へ

二百五十四　汝の敵を見ん　時すべて信徒を惡く者および陽の故に安を與へ給へ

二百五十五　汝の敵を見ん　時すべて信徒を惡く者および陽の故に安を與へ給へ

二百五十六　汝の敵を見ん　時すべて信徒を惡く者および陽の故に安を與へ給へ

二百五十七　汝の敵を見ん　時すべて信徒を惡く者および陽の故に安を與へ給へ

二百五十八　汝の敵を見ん　時すべて信徒を惡く者および陽の故に安を與へ給へ

二百五十九　汝の敵を見ん　時すべて信徒を惡く者および陽の故に安を與へ給へ

二百六十　汝の敵を見ん　時すべて信徒を惡く者および陽の故に安を與へ給へ

二百六十一　汝の敵を見ん　時すべて信徒を惡く者および陽の故に安を與へ給へ

二百六十二　汝の敵を見ん　時すべて信徒を惡く者および陽の故に安を與へ給へ

二百六十三　汝の敵を見ん　時すべて信徒を惡く者および陽の故に安を與へ給へ

二百六十四　汝の敵を見ん　時すべて信徒を惡く者および陽の故に安を與へ給へ

二百六十五　汝の敵を見ん　時すべて信徒を惡く者および陽の故に安を與へ給へ

二百六十六　汝の敵を見ん　時すべて信徒を惡く者および陽の故に安を與へ給へ

二百六十七　汝の敵を見ん　時すべて信徒を惡く者および陽の故に安を與へ給へ

二百六十八　汝の敵を見ん　時すべて信徒を惡く者および陽の故に安を與へ給へ

二百六十九　汝の敵を見ん　時すべて信徒を惡く者および陽の故に安を與へ給へ

二百七十　汝の敵を見ん　時すべて信徒を惡く者および陽の故に安を與へ給へ

二百七十一　汝の敵を見ん　時すべて信徒を惡く者および陽の故に安を與へ給へ

二百七十二　汝の敵を見ん　時すべて信徒を惡く者および陽の故に安を與へ給へ

二百七十三　汝の敵を見ん　時すべて信徒を惡く者および陽の故に安を與へ給へ

二百七十四　汝の敵を見ん　時すべて信徒を惡く者および陽の故に安を與へ給へ

二百七十五　汝の敵を見ん　時すべて信徒を惡く者および陽の故に安を與へ給へ

二百七十六　汝の敵を見ん　時すべて信徒を惡く者および陽の故に安を與へ給へ

二百七十七　汝の敵を見ん　時すべて信徒を惡く者および陽の故に安を與へ給へ

二百七十八　汝の敵を見ん　時すべて信徒を惡く者および陽の故に安を與へ給へ

二百七十九　汝の敵を見ん　時すべて信徒を惡く者および陽の故に安を與へ給へ

二百八十　汝の敵を見ん　時すべて信徒を惡く者および陽の故に安を與へ給へ

二百八十一　汝の敵を見ん　時すべて信徒を惡く者および陽の故に安を與へ給へ

二百八十二　汝の敵を見ん　時すべて信徒を惡く者および陽の故に安を與へ給へ

二百八十三　汝の敵を見ん　時すべて信徒を惡く者および陽の故に安を與へ給へ

二百八十四　汝の敵を見ん　時すべて信徒を惡く者および陽の故に安を與へ給へ

二百八十五　汝の敵を見ん　時すべて信徒を惡く者および陽の故に安を與へ給へ

二百八十六　汝の敵を見ん　時すべて信徒を惡く者および陽の故に安を與へ給へ

二百八十七　汝の敵を見ん　時すべて信徒を惡く者および陽の故に安を與へ給へ

二百八十八　汝の敵を見ん　時すべて信徒を惡く者および陽の故に安を與へ給へ

二百八十九　汝の敵を見ん　時すべて信徒を惡く者および陽の故に安を與へ給へ

二百九十　汝の敵を見ん　時すべて信徒を惡く者および陽の故に安を與へ給へ

二百九十一　汝の敵を見ん　時すべて信徒を惡く者および陽の故に安を與へ給へ

二百九十二　汝の敵を見ん　時すべて信徒を惡く者および陽の故に安を與へ給へ

二百九十三　汝の敵を見ん　時すべて信徒を惡く者および陽の故に安を與へ給へ

二百九十四　汝の敵を見ん　時すべて信徒を惡く者および陽の故に安を與へ給へ

二百九十五　汝の敵を見ん　時すべて信徒を惡く者および陽の故に安を與へ給へ

二百九十六　汝の敵を見ん　時すべて信徒を惡く者および陽の故に安を與へ給へ

二百九十七　汝の敵を見ん　時すべて信徒を惡く者および陽の故に安を與へ給へ

二百九十八　汝の敵を見ん　時すべて信徒を惡く者および陽の故に安を與へ給へ

二百九十九　汝の敵を見ん　時すべて信徒を惡く者および陽の故に安を與へ給へ

三百　汝の敵を見ん　時すべて信徒を惡く者および陽の故に安を與へ給へ

三百一　汝の敵を見ん　時すべて信徒を惡く者および陽の故に安を與へ給へ

三百二　汝の敵を見ん　時すべて信徒を惡く者および陽の故に安を與へ給へ

三百三　汝の敵を見ん　時すべて信徒を惡く者および陽の故に安を與へ給へ

三百四　汝の敵を見ん　時すべて信徒を惡く者および陽の故に安を與へ給へ

三百五　汝の敵を見ん　時すべて信徒を惡く者および陽の故に安を與へ給へ

三百六　汝の敵を見ん　時すべて信徒を惡く者および陽の故に安を與へ給へ

三百七　汝の敵を見ん　時すべて信徒を惡く者および陽の故に安を與へ給へ

三百八　汝の敵を見ん　時すべて信徒を惡く者および陽の故に安を與へ給へ

三百九　汝の敵を見ん　時すべて信徒を惡く者および陽の故に安を與へ給へ

三百十　汝の敵を見ん　時すべて信徒を惡く者および陽の故に安を與へ給へ

三百十一　汝の敵を見ん　時すべて信徒を惡く者および陽の故に安を與へ給へ

三百十二　汝の敵を見ん　時すべて信徒を惡く者および陽の故に安を與へ給へ

三百十三　汝の敵を見ん　時すべて信徒を惡く者および陽の故に安を與へ給へ

三百十四　汝の敵を見ん　時すべて信徒を惡く者および陽の故に安を與へ給へ

三百十五　汝の敵を見ん　時すべて信徒を惡く者および陽の故に安を與へ給へ

三百十六　汝の敵を見ん　時すべて信徒を惡く者および陽の故に安を與へ給へ

三百十七　汝の敵を見ん　時すべて信徒を惡く者および陽の故に安を與へ給へ

三百十八　汝の敵を見ん　時すべて信徒を惡く者および陽の故に安を與へ給へ

三百十九　汝の敵を見ん　時すべて信徒を惡く者および陽の故に安を與へ給へ

三百二十　汝の敵を見ん　時すべて信徒を惡く者および陽の故に安を與へ給へ

三百二十一　汝の敵を見ん　時すべて信徒を惡く者および陽の故に安を與へ給へ

三百二十二　汝の敵を見ん　時すべて信徒を惡く者および陽の故に安を與へ給へ

三百二十三　汝の敵を見ん　時すべて信徒を惡く者および陽の故に安を與へ給へ

三百二十四　汝の敵を見ん　時すべて信徒を惡く者および陽の故に安を與へ給へ

三百二十五　汝の敵を見ん　時すべて信徒を惡く者および陽の故に安を與へ給へ

三百二十六　汝の敵を見ん　時すべて信徒を惡く者および陽の故に安を與へ給へ

三百二十七　汝の敵を見ん　時すべて信徒を惡く者および陽の故に安を與へ給へ

三百二十八　汝の敵を見ん　時すべて信徒を惡く者および陽の故に安を與へ給へ

三百二十九　汝の敵を見ん　時すべて信徒を惡く者および陽の故に安を與へ給へ

三百三十　汝の敵を見ん　時すべて信徒を惡く者および陽の故に安を與へ給へ

三百三十一　汝の敵を見ん　時すべて信徒を惡く者および陽の故に安を與へ給へ

三百三十二　汝の敵を見ん　時すべて信徒を惡く者および陽の故に安を與へ給へ

三百三十三　汝の敵を見ん　時すべて信徒を惡く者および陽の故に安を與へ給へ

三百三十四　汝の敵を見ん　時すべて信徒を惡く者および陽の故に安を與へ給へ

三百三十五　汝の敵を見ん　時すべて信徒を惡く者および陽の故に安を與へ給へ

三百三十六　汝の敵を見ん　時すべて信徒を惡く者および陽の故に安を與へ給へ

三百三十七　汝の敵を見ん　時すべて信徒を惡く者および陽の故に安を與へ給へ

三百三十八　汝の敵を見ん　時すべて信徒を惡く者および陽の故に安を與へ給へ

三百三十九　汝の敵を見ん　時すべて信徒を惡く者および陽の故に安を與へ給へ

三百四十　汝の敵を見ん　時すべて信徒を惡く者および陽の故に安を與へ給へ

三百四十一　汝の敵を見ん　時すべて信徒を惡く者および陽の故に安を與へ給へ

三百四十二　汝の敵を見ん　時すべて信徒を惡く者および陽の故に安を與へ給へ

三百四十三　汝の敵を見ん　時すべて信徒を惡く者および陽の故に安を與へ給へ

三百四十四　汝の敵を見ん　時すべて信徒を惡く者および陽の故に安を與へ給へ

三百四十五　汝の敵を見ん　時すべて信徒を惡く者および陽の故に安を與へ給へ

三百四十六　汝の敵を見ん　時すべて信徒を惡く者および陽の故に安を與へ給へ

三百四十七　汝の敵を見ん　時すべて信徒を惡く者および陽の故に安を與へ給へ

三百四十八　汝の敵を見ん　時すべて信徒を惡く者および陽の故に安を與へ給へ

三百四十九　汝の敵を見ん　時すべて信徒を惡く者および陽の故に安を與へ給へ

三百五十　汝の敵を見ん　時すべて信徒を惡く者および陽の故に安を與へ給へ

三百五十一　汝の敵を見ん　時すべて信徒を惡く者および陽の故に安を與へ給へ

三百五十二　汝の敵を見ん　時すべて信徒を惡く者および陽の故に安を與へ給へ

三百五十三　汝の敵を見ん　時すべて信徒を惡く者および陽の故に安を與へ給へ

三百五十四　汝の敵を見ん　時すべて信徒を惡く者および陽の故に安を與へ給へ

三百五十五　汝の敵を見ん　時すべて信徒を惡く者および陽の故に安を與へ給へ

三百五十六　汝の敵を見ん　時すべて信徒を惡く者および陽の故に安を與へ給へ

三百五十七　汝の敵を見ん　時すべて信徒を惡く者および陽の故に安を與へ給へ

三百五十八　汝の敵を見ん　時すべて信徒を惡く者および陽の故に安を與へ給へ

三百五十九　汝の敵を見ん　時すべて信徒を惡く者および陽の故に安を與へ給へ

三百六十　汝の敵を見ん　時すべて信徒を惡く者および陽の故に安を與へ給へ

三百六十一　汝の敵を見ん　時すべて信徒を惡く者および陽の故に安を與へ給へ

三百六十二　汝の敵を見ん　時すべて信徒を惡く者および陽の故に安を與へ給へ

三百六十三　汝の敵を見ん　時すべて信徒を惡く者および陽の故に安を與へ給へ

三百六十四　汝の敵を見ん　時すべて信徒を惡く者および陽の故に安を與へ給へ

三百六十五　汝の敵を見ん　時すべて信徒を惡く者および陽の故に安を與へ給へ

三百六十六　汝の敵を見ん　時すべて信徒を惡く者および陽の故に安を與へ給へ

三百六十七　汝の敵を見ん　時すべて信徒を惡く者および陽の故に安を與へ給へ

三百六十八　汝の敵を見ん　時すべて信徒を惡く者および陽の故に安を與へ給へ

三百六十九　汝の敵を見ん　時すべて信徒を惡く者および陽の故に安を與へ給へ

三百七十　汝の敵を見ん　時すべて信徒を惡く者および陽の故に安を與へ給へ

三百七十一　汝の敵を見ん　時すべて信徒を惡く者および陽の故に安を與へ給へ

三百七十二　汝の敵を見ん　時すべて信徒を惡く者および陽の故に安を與へ給へ

三百七十三　汝の敵を見ん　時すべて信徒を惡く者および陽の故に安を與へ給へ

三百七十四　汝の敵を見ん　時すべて信徒を惡く者および陽の故に安を與へ給へ

三百七十五　汝の敵を見ん　時すべて信徒を惡く者および陽の故に安を與へ給へ

三百七十六　汝の敵を見ん　時すべて信徒を惡く者および陽の故に安を與へ給へ

三百七十七　汝の敵を見ん　時すべて信徒を惡く者および陽の故に安を與へ給へ

三百七十八　汝の敵を見ん　時すべて信徒を惡く者および陽の故に安を與へ給へ

三百七十九　汝の敵を見ん　時すべて信徒を惡く者および陽の故に安を與へ給へ

三百八十　汝の敵を見ん　時すべて信徒を惡く者および陽の故に安を與へ給へ

三百八十一　汝の敵を見ん　時すべて信徒を惡く者および陽の故に安を與へ給へ

三百八十二　汝の敵を見ん　時すべて信徒を惡く者および陽の故に安を與へ給へ

三百八十三　汝の敵を見ん　時すべて信徒を惡く者および陽の故に安を與へ給へ

三百八十四　汝の敵を見ん　時すべて信徒を惡く者および陽の故に安を與へ給へ

三百八十五　汝の敵を見ん　時すべて信徒を惡く者および陽の故に安を與へ給へ

三百八十六　汝の敵を見ん　時すべて信徒を惡く者および陽の故に安を與へ給へ

三百八十七　汝の敵を見ん　時すべて信徒を惡く者および陽の故に安を與へ給へ

三百八十八　汝の敵を見ん　時すべて信徒を惡く者および陽の故に安を與へ給へ

三百八十九　汝の敵を見ん　時すべて信徒を惡く者および陽の故に安を與へ給へ

三百九十　汝の敵を見ん　時すべて信徒を惡く者および陽の故に安を與へ給へ

三百九十一　汝の敵を見ん　時すべて信徒を惡く者および陽の故に安を與へ給へ

三百九十二　汝の敵を見ん　時すべて信徒を惡く者および陽の故に安を與へ給へ

三百九十三　汝の敵を見ん　時すべて信徒を惡く者および陽の故に安を與へ給へ

三百九十四　汝の敵を見ん　時すべて信徒を惡く者および陽の故に安を與へ給へ

三百九十五　汝の敵を見ん　時すべて信徒を惡く者および陽の故に安を與へ給へ

三百九十六　汝の敵を見ん　時すべて信徒を惡く者および陽の故に安を與へ給へ

三百九十七　汝の敵を見ん　時すべて信徒を惡く者および陽の故に安を與へ給へ

三百九十八　汝の敵を見ん　時すべて信徒を惡く者および陽の故に安を與へ給へ

三百九十九　汝の敵を見ん　時すべて信徒を惡く者および陽の故に安を與へ給へ

四百　汝の敵を見ん　時すべて信徒を惡く者および陽の故に安を與へ給へ

四百